

作成日	29年11月22日
会議日時	平成 29年 11月 17日
会場	デイサービス恵
出席者	市役所職員 地域包括支援センター職員 2名
	住民代表者様 第3区長 民生員 2名
	利用者ご家族様 0名
	その他 デイサービス恵 管理者・相談員 事務長 3名
欠席者	無
議事報告	<p>日程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 事務長より・現状報告 3. 参加者自己紹介 4. 管理者あいさつ 5. 利用者状況 6. 近況報告 7. レクリエーションについて 8. 今月のテーマ《感染症》 9. <ol style="list-style-type: none"> ① インフルエンザについて ② ノロウイルスについて ③ デイサービス恵の健康管理・予防 10 質疑応答 (別紙参照) 11 施設見学
次回開催予定日	平成30年 5月18日 (金) 時間 14時30分～15時30分
添付資料	デイサービス恵の報告書・インフルエンザについて・ノロウイルスについて・デイサービス恵健康管理・予防 別紙 質疑応答
備考	

第4回運営推進会議

平成29年 11月 17日
開催場所 デイサービス恵

《現状報告》(平成29年10月現在)

デイサービス 利用状況	利用者人数23名
	要介護1 (6名) 要介護2 (4名) 要介護3 (6名) 要介護4 (3名)
	要介護 5 (1名) 要支援1 (1名) 要支援2 (2名)
	平均年齢 82歳

《デイサービス恵の紹介》

サービス提供時間	9:00 ~ 16:30
休日	日曜日 年末年始 12月30日~1月3日
1日利用人数	15名
利用地域	桐生市

《近況報告》

9月18日 火災災害避難訓練を行い、利用者様の参加をしていただきました。

7月24日 7月生まれ 1名のお誕生日会実地致しました。

8月24日 8月生まれ 1名のお誕生日会実地致しました。

9月24日 9月生まれ 1名のお誕生日会実地致しました。

10月22日 10月生まれ 2名のお誕生日会実地致しました。

《レクリエーション》

機能訓練の一貫として、個別制作で壁飾りや共同作品で物作りを行っております。

(今年は、桐生タイムス主催、有鄰館で行われた福祉作品展に利用者様の制作された作品を出展致しました。)

6月は、藤棚の共同作品を作成致しました。(出展作品)

7月は、七夕飾りを作りました。

8月は、ぶどう畑を共同作品でつくりました。

9月は、紙テープで、コスモスを作りました。

10月は、イチョウの紅葉作りました。

菊の花を個人作品として、制作して頂きました。

《認知症予防ならびに機能訓練の一貫として、脳トレーニングを強化しております。

間違い探し、計算問題、点つなぎ、四文字熟語の穴埋め問題など脳の活性化

今回のテーマ《冬に向けての流行性インフルエンザやノロウイルス予防》

1. インフルエンザについて
2. ノロウイルスについて
3. デイサービス恵の健康管理・予防

《質疑応答》

※本日は忙しい中、お集まりいただきご協力ありがとうございました。

次回の運営推進会議は5月18日(金)に予定しております。

ご多忙と存じますが、参加のほどよろしく願いいたします。

高齢者とインフルエンザ

◇高齢者がインフルエンザに感染すると重篤化する恐れがあります。

突然の発熱と、全身の筋肉痛などの症状を特徴とするインフルエンザ。通常は子供が発症しやすいとされているインフルエンザですが、感染による死亡者のうち、圧倒的多数を占めているのは65歳以上の高齢者です。高齢者にとってのインフルエンザの注意すべきポイントはどこにあるのでしょうか？

◇インフルエンザが高齢者に危険な理由

高齢者には、心疾患や喘息など呼吸系の疾患や、糖尿病、腎臓病、高血圧など慢性の病気を抱えた人が多く見られます。

つまり年齢による体力の低下に加え、さらなる健康リスクを抱えた状態である事が出来るのです。そのため、感染を引き金として肺炎などの合併症を併発したり、慢性の病気が悪化する可能性があります。

単なるインフルエンザの症状以上に重篤化してしまう危険性をはらんでいるのが、高齢者にとってのインフルエンザなのです。

◇インフルエンザの感染予防

一般に、体の抵抗力が低下している場合に感染しやすいとされる、インフルエンザ。乳幼児から15歳以下の子供、もちろん高齢者も当てはまります。まずは健康管理により抵抗力の低下を防止し、マスクの着用や手洗いなど、感染防止の習慣づけを心がけましょう。また高齢者本人はもちろん、高齢者と接する機会を持つ人も、感染防止を心かける事が重要です。

◇インフルエンザの感染に気付いたら

1. 大切なのは、早めの受診

インフルエンザは、発症してから48時間以内に医師の処方薬を服用する事が最も重要です。

48時間以内にタミフルなどの抗ウイルス薬を服薬した場合、早めの回復を見込むことができるのです。

高齢者の場合、病院にたどり着くこと自体が困難になる場合もあります。

その場合インフルエンザ自体に効果のあるものではなく、普通の風邪の場合と同様の処方がなされます。

2. 他の人にうつさない

インフルエンザの感染者は、寝室で安静を保つことを心がけ、他者との接触は出来る限り控えましょう。

同居の家族内で感染者が出た場合は、全員マスクを着用し手洗いうがいなどの対策を取ることも重要です。

3. 無理せず休む

感染した高齢者が、介護サービスなどを利用を控えることはもちろん、施設との情報共有を積極的に行いましょう。それにより第三者の感染防止にもつながる事が出来ます。

インフルエンザは容赦なく体力を奪います。安静にして体力の温存と回復に努める事が大切です。

高熱には発汗が伴います。汗が出たら着替えをしたり、水分もこまめに行いスポーツドリンクはもちろん本人が飲みたい物や食べたい物で構えませぬので、消化の良いものを取って行くように心がけましょう。

4. なにはともあれ感染しない！

インフルエンザは予防が何より大切です。予防接種はもちろん、流行時期のマスクの着用や手洗いうがいが、感染防止に大切なのです。流行時期の外出は極力避けるなどの対策も重要です。

冬季に多いノロウイルス感染症

◇高齢者の感染は重篤化しやすい

ノロウイルスは、冬季に流行するウイルス性胃腸炎の主要病原体です。小児から老人まで幅広く感染しますが、高齢者の場合には症状が、重く生命にかかわることもあり、注意が必要です。汚染された食べ物を介した集団食中毒を起こす事で、人から人への感染が家庭内や病院または、介護福祉施設などで発生する事もあります。

◇病原体と感染経路

ノロウイルスの流行は12月から3月に多く、カキなどの魚介類を介した食中毒として流行する場合と、二次感染で、感染者との接触感染により人から人へ感染を起こす場合があります。また嘔吐物や便を取り扱ったりした際に感染する場合や、少量のウイルスの粒子が口から摂取されるだけで感染するので、感染力は大変に強いと考えられる。

◇症状

ウイルスが体内に入ると1～2日の潜伏期間をへて感染をする。吐き気、嘔吐、下痢が主症状であるが、腹痛頭痛・発熱・悪寒・筋肉痛・咽頭の痛みなどを伴う事があります。健康な成人では2～3週間は、ウイルスが便中に排出されます。

◇ノロウイルスの予防

カキなどの貝類の生食を避けるとともに、多数の人々が集まる所を避ける事が重要です。たとえば 病院・デパート・施設・など人の集まる所は、集団感染の危険性があります。手洗いなどの衛生習慣を心がける事が重要です。

◇ 感染を防ぐには

ノロウイルスは90℃以上で1分以上の加熱が必要で、アルコール消毒では死滅しないため、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用 塩素系漂白剤 キッチンハイター・ブリーチ)など500mlのペットボトルでキャップ1/2入れ水500mlを入れることで、塩素系の消毒液が出来ます。嘔吐物や排せつ物の処理用の場合はキャップ2杯の濃度で、処理時の消毒液が出来ます。(1000ppm) ※処理に使用した布または、キッチンペーパーなどは、使い捨てにします。その後しっかり水拭きしてください。次亜塩素酸ナトリウムは、濃度が高いほどノロウイルスには効果的ですが、衣服を傷めたり、色落ちの原因となります。そのため、衣服などは、90℃以上の熱湯に、90秒以上つける方法があります。

◇ 注意する事

感染者の入浴は、下痢をしている間は入浴は避けることで、他の感染を防ぐことができます。日頃の体調を良好に保つ事で、感染するリスクを下げる事が出来ます。

デイサービス予防対策

利用者様の予防対策

- ◇ デイサービスに来所後すぐに手の消毒をし、うがいを行う。(自宅で口腔ケアが出来ない方はデイにて行う)
- ◇ バイタルチェックで(血圧・脈拍・体温)測定を行う。
- ◇ 入浴前や入浴後には、しっかり、水分補給
- ◇ 食事前の口腔体操で唾液の分泌をうながし、口腔の環境を整えております。
- ◇ 食後の口腔ケアや磨き残しのチェック
- ◇ 服薬状況や、通院状況、予防注射の確認、把握に努めております。

職員の予防対策

- ◇ 一つの作業ごとの手洗いと消毒実地
- ◇ 排泄介助時、使い捨てグローブの使用
- ◇ 健康診断の実地
- ◇ 予防注射(インフルエンザ)の実地
- ◇ 配膳時の衛生管理や食毒使用後の食器類の滅菌・消毒の実地
- ◇ トイレ掃除は、次亜塩素酸使用する。
- ◇ グリーンアクアにて、浴室・トイレ・テーブル・椅子・手すりなどの消毒・滅菌の実地
- ◇ グリーンアクア水の加湿を常時行っています。

《 グリーンアクアとは、薬品不使用の次亜塩素酸水です。 》

グリーンアクアは、(HClO)は人体に元来備わっている除菌成分です。

グリーンアクアは、一切薬品を使用せず、純水と食塩水のみを電気分解している除菌・消臭機能水です。



● 空間の除菌・消臭 — 超音波噴霧器 —

ニオイは空気の流れによって面につく!

ニオイはエアコンや人の動きなど、空気の動きによって壁やカーテン、床、机など色々な面につきます。面に付着したニオイは、そこで雑菌やほこりや他のニオイと混ざり、不快なニオイに変化していきます。

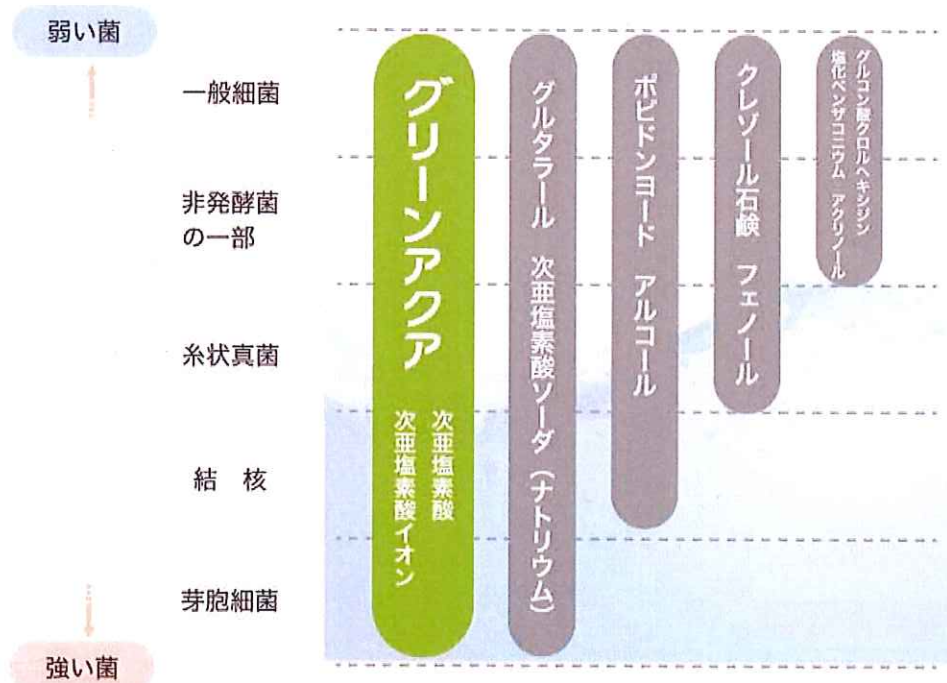
超音波噴霧器で液剤を細かくし、空調にのせて定期的に散布することで効率的に悪臭の発生を抑えます。排気ダクトを働かせることで、ダクト内のニオイも消していきます。

超音波噴霧器とは?

グリーンアquaを超微粒子化(3~5 ミクロン)したものを空間に散布します。加湿器と違い粒子が細かいので水滴や結露の心配もほとんどありません。



● グリーンアquaの除菌スペクトル表



検査データ

- 抗ノロウイルス効果試験
- 抗カビ試験
- 脱臭効果試験
- ノネナール脱臭効果試験
- 動物安全性試験 (ネコカリシウイルス)
- 犬パルボウイルス不活化効果試験
- 一般細菌・各種ウイルス不活化効果試験

◆用途と希釈表 (目安濃度)

- 10・・・希釈濃度 10 倍
- 5・・・希釈濃度 5 倍
- 2・・・希釈濃度 2 倍～原液



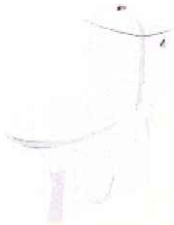
まな板・包丁の除菌 10



テーブルの除菌 10



台所衛生管理 10



トイレの除菌・消臭 5



入歯の除菌 10



手すりの除菌 10



生ゴミ・
ゴミ箱の消臭 5

送迎車の消臭 5



歯ブラシ 10



介護用品の除菌

10



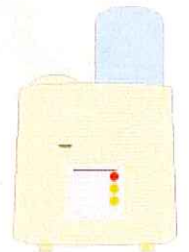
カビの除菌 5



スピットンの除菌と消臭に
専用クリーナーで汚れを落
とした後に！ 10



超音波噴霧器 10
による空間除菌
※環境によって 10~20 倍
お部屋、待合室など



ユニット・チェア
安頭台の除菌 10



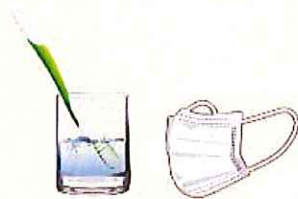
診察台やゲージの
衛生管理 5 10



肉球の衛生管理 5 10



スリッパの除菌 5



歯ブラシや
マスクの除菌に 10



おしっこや便の消臭 5



動物の
肛門線の臭い 5



ペットトイレ臭 5

その他、こんなところにもグリーンアクア！

- 10 お風呂場の除菌、車内の除菌・消臭、スリッパ・靴、浴室マット、下駄箱の消臭
- 5 タバコの消臭
- 2 嘔吐物処理、強い生ゴミ臭、強いトイレ臭

ノロウイルスの2次感染予防のための 汚物処理の方法

準備するもの

予防衣: 使い捨て(ディスポーザブル)手袋、マスク、エプロン(用意があればディスポーザブルガウン)

その他: 新聞紙や布、消毒液 α^* 、ビニール袋2枚(ビニール袋 A 、 B)

汚物が発生したら、適切な方法で迅速に処理する必要があります。

2次感染を防ぐために、正しい手順を覚えておきましょう。

汚物(利用者の嘔吐物や便)を発見

- 1 手を洗う
- 2 予防衣の着用
手袋は2枚重ね
- 3 ビニール袋の準備
袋の口は開けておく
- 4 消毒液 α^* をバケツなどに入れておく

↓ 嘔吐物の場合

↓ 便の場合

5

嘔吐物の拭き取り



- ひざはつかない
- 布や新聞紙を外側から内側に向け、折りたたみながら拭き取る
- 同一面で拭き取ると汚染を広げてしまうので注意
- 拭き取った紙や布は、ビニール袋 A にすぐに入れる

5

便の拭き取り

- おむつを開いたら速やかに拭き取る
- 拭き取った紙や布を入れ、できるだけ速やかに静かにおむつを閉じ、ビニール袋 A にすぐに入れる
- 新しいおむつに替える

衣服やシーツなどに汚染がある場合は、別のビニール袋に入れて、口を縛っておく

6

外側の手袋を外して、
ビニール袋 A に入れる

7

床の清掃と消毒
消毒液 α^* を使い、汚物が付着した部分よりも広い範囲を拭き取る

8

ビニール袋 A の口を縛る
内容物がまんべんなく濡れる程度に消毒液 α^* を袋に入れ、閉じる

9

片手のみ手袋を外し、
ビニール袋 B に入れる



10

ビニール袋 A を B に入れる



手袋をした手で A の袋を B に入れる

※ 消毒液 $\alpha \cdot \beta$ の作り方

スタッフ一人ひとりが消毒薬を持ってサービスにあたるのではなく、利用者宅で消毒薬を借り、用途によって適切な濃度に希釈して使用します。

使用する消毒薬 **次亜塩素酸ナトリウム**

商品名: ジアノック ® 、ビューラックス ® 、ミルトン ® など

消毒液 α
濃度 0.1% に対し 水3L に対し 次亜塩素酸ナトリウム 50ml

消毒液 β
濃度 0.02% に対し 水3L に対し 次亜塩素酸ナトリウム 10ml

11

予防衣、残りの手袋、エプロン(ガウン)、マスクをすべて外し、ビニール袋 B に入れる

12

ビニール袋 B の口を縛る

13

手洗いとうがいを

14

最後に必ず換気を行う